

日中韓 三国協力事務局

Trilateral Cooperation Secretariat

2015年度年次報告書
Annual Report FY2015



www.tcs-asia.org



日中韓三国協力事務局は2010年12月に日中韓三国首脳が署名した設立協定に基づき、2011年9月に韓国・ソウルに設立されました。本年代報告書には、2015年の会計年度(2015年9月から2016年8月)における事務局の活動が掲載されています。



日中韓三国協力事務局
中日韩三国合作秘书处
한중일 3국협력사무국

FY2015
年次報告書

2015.9 – 2016.8

日中韓三国協力事務局 2015年度年次報告書

2016年12月発行
大韓民国ソウル特別市 鍾路区 新門安路82 Sタワー20階
電話番号 +82-2-733-4700 / Fax. +82-2-733-2525
www.tsc-asia.org
tcs@tcs-asia.org

Copyright © 2016 Trilateral Cooperation Secretariat
日中韓三国協力事務局の事前許可なく本書を無断転記・複写
することを禁じます。

A CIP catalogue record of the National Library of Korea for this
book is available at the homepage of CIP(<http://seoji.nl.go.kr>) and
Korean Library Information System Network([http://www.nl.go.kr/
kolisnet](http://www.nl.go.kr/kolisnet)). (CIP2016032578)

目次



はじめに	6
日中韓三国協力事務局について	8
I. 三国政府間協議への支援	11
1. サミット	12
1) 第6回日中韓サミット	12
2) 第18回ASEAN+3首脳会議	13
2. 閣僚級会議	14
II. 三国協力事業の発掘・促進	16
政治	
1. 国際会議「北東アジア地域統合の未来と韓半島」	17
2. 仙台防災枠組ワークショップ	18
3. 第4回日中韓三国防災机上演習(TTX)	19
経済・持続可能な開発	
1. 第1回日中韓経済ワークショップ	20
2. 第1回 - 第4回「サプライチェーン連結性向上のための三国間協力」研究会	21
3. 第4回日中韓FTAセミナー及び日中韓ビジネス交流会	22
4. 環境に対する人々の意識向上に関する日中韓協議	24
社会・文化	
1. 第2回日中韓記者共同取材プログラム	25
2. 第5回日中韓キャンパスハーモニー	26
3. 日中韓ユース・ダイアログ	27
4. 第3回日中韓記者交流プログラム	28
5. 第5回、第6回日中韓月例講演会(TCS LOUPE)	29
6. 2016年度青年大使プログラム	30
7. 2016年度東アジア文化都市との日中韓吹奏楽交流	31
部門横断事業	
1. 日中韓三国協力国際フォーラム2016及び第1回日中韓三国公共外交フォーラム	32
2. 第11回平和と繁栄のための済州フォーラム	34
III. 他の国際機関との交流および調整	36
東南アジア	
1. 東南アジア諸国連合(ASEAN)への訪問	37
2. 第7回中国アセアンセンター・日本アセアンセンター・韓国アセアンセンター事務総長会議への参加	38
欧州	
1. 駐韓欧州連合(EU)代表部への表敬訪問	39
2. 北欧閣僚理事会・事務総長の来訪	40
国連機関	
1. 第7回、第8回国連グローバル・コンパクト日中韓ラウンドテーブルへの参加	41
2. 国連アジア太平洋経済社会委員会北東アジア事務所長の来訪	42
3. 国際連合教育科学文化機関アジア太平洋地域国際理解教育院長の来訪	42
4. 国連国際防災戦略事務局部長の来訪	43
IV. 研究及びデータベースの構築	44
1. 2015 - 2016年日中韓三国協力進捗報告書	45
2. 共にあゆむ日中韓	45
3. 日中韓三国経済報告書 2016	45
4. 2016日中韓三国統計集	45
5. 日中韓三国協力国際フォーラム2016及び第1回日中韓三国公共外交フォーラム成果報告書	46

はじめに



楊厚蘭

日中韓三国協力事務局長

楊厚蘭(よう・こうらん)

日中韓三国協力事務局長の2015年度(2015年9月から2016年8月)年次報告書の発行にあたり、謹んでご挨拶申し上げます。本年次報告は第三次協議理事会が実施した活動をまとめた報告書です。これと同時に、三国全ての国が事務局長を一度ずつ派遣し、事務局の創立5周年を総括するものにもなりました。今から5年前、三国協力をより効率的に推進し管理するために三国政府によって共同で設立された事務局は、三国協力の制度化だけでなく三国協力の更なる発展に向けた未来を象徴しています。私は初の中国出身の事務局長として大きな責任を感じております。

まずはこの場をお借りして歴代の協議理事会に対する深い感謝の意を表明致します。第一次理事会は韓国の申鳳吉(シン・ボンギル)大使を筆頭に、制度的な基盤が皆無の中、事務局の組織運営や規定を整備し、三国協力の方向性を示しました。第二次理事会は、日本の岩谷滋雄大使の下、外交的な困難の中、三国協力を推し進め、現在の事務局を代表する多くの独自事業を開拓し推進しました。第三次理事会は、これまでの努力や成果を基礎に、既存の協力案件を改善・補完し発展させ、三国協力全般において事務局の参加を促し影響力を高めるよう努めて参りました。

2015年11月に第6回日中韓サミットが約3年半ぶりにソウルで開催されました。三国首脳の再会を機に日中韓協力も新たな跳躍の機会を得ました。この1年間、事務局は第1回日中韓教育大

臣会合をはじめとする12の閣僚級会議、60余りの実務者級協議に参加し、これらの効率的な運営や管理のための支援を惜しみませんでした。また、仙台防災枠組ワークショップ、サプライチェーン連結性(SCC)向上のための三国間協力研究会、環境に対する人々の意識向上に関する日中韓協議、東アジア文化都市吹奏楽交流など、防災、物流、環境、地方自治体交流の分野で新しい日中韓協力事業を発掘し促進させてきた一方、日中韓三国協力国際フォーラム2016及び第1回日中韓公共外交フォーラムの共同開催など既存の代表的事業を発展させる新しい試みも継続してきました。また、北欧閣僚理事会や国連機関などほかの国際機関との交流も強化してきました。

これまでの5年間、日中韓三国は、金融、持続可能な開発、環境保護、観光、文化交流、教育、人的交流、防災といった多様な分野で多くの協力を成し遂げましたが、いまだ日の目をみない無限の潜在的な三国協力があり、更なる発展を遂げることが可能であることも忘れてはなりません。今後も事務局は三国政府に対してあらゆる必要な支援を継続して参ります。事務局長、2名の事務局次長および三国協力のために集まった職員一同、未来志向の友好協力関係を維持・強化していくために労を惜しまず、事務局の責任と義務を心に刻み、次の新しい1年も最善を尽くしていく所存でございます。どうぞこれまで以上に皆様の御理解と御協力を賜るようお願い申し上げます。

日中韓三国協力事務局について

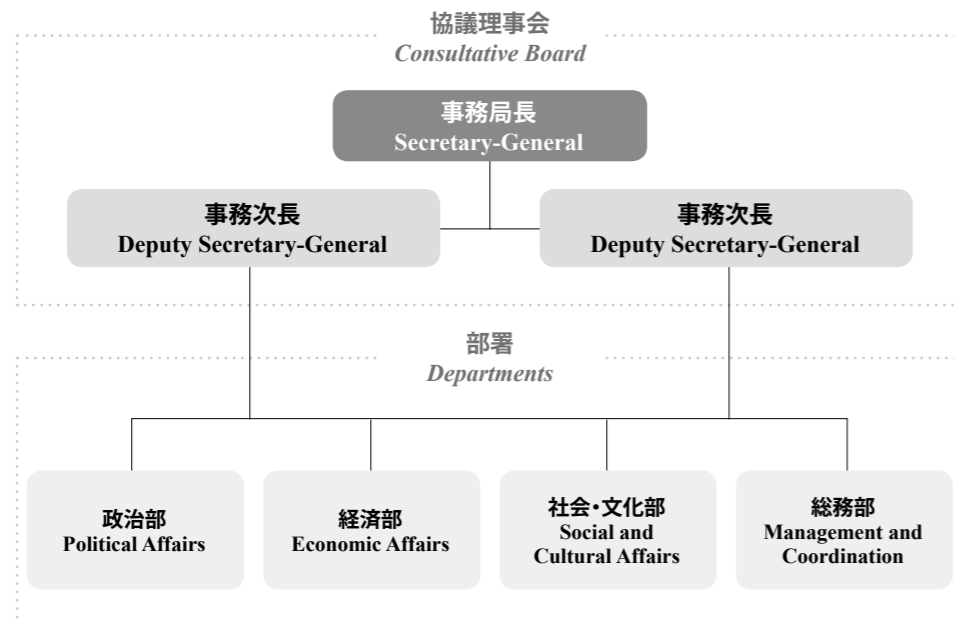
01. 概要

日中韓三国協力事務局(Trilateral Cooperation Secretariat: TCS)は、日中韓三国の協力関係の促進を目的として、三国政府が締結した国際約束に基づき設立された国際機関です。2011年9月に韓国・ソウルにて正式に活動を開始し、三国の平和と繁栄のために努めています。当事務局の運営予算は、各国が3分の1ずつ負担しています。

目的及び任務:

- 三国政府間協議への支援
- 三国協力事業の発掘・促進
- 他の国際機関との交流および調整
- 研究及びデータベースの構築

02. 組織構成



協議理事会

協議理事会は最高意思決定機関であり、各国から2年ごとに持ち回りで任命される事務局長1名及び事務次長2名で構成されています。

第一次理事会 2011.9 - 2013.8	事務局長	韓国	申鳳吉(シン・ボンギル)
	事務次長	日本	松川るい
	事務次長	中国	毛寧(もう・ねい)
第二次理事会 2013.9 - 2015.8	事務局長	日本	岩谷滋雄
	事務次長	中国	陳峰(ちん・ほう)
	事務次長	韓国	李鐘憲(イ・ジョンホン)
第三次理事会 2015.9 - 現在	事務局長	中国	楊厚蘭(よう・こうらん)
	事務次長	韓国	李鐘憲(イ・ジョンホン)
	事務次長	日本	梅澤彰馬

部門別担当分野

協議理事会の下に三国政府から派遣された専門職員および各国から公募形式で選抜された一般職員で構成される4つの部署があります。

政治部

- 外交
- 安全保障
- 地域情勢
- 国際情勢
- 防災
- シンクタンクネットワーク

社会・文化部

- 文化
- 保健・福祉
- 観光
- 人事行政
- 青少年交流
- 教育
- メディア
- 地方自治体交流

経済部

- 貿易・投資
- 運輸・物流
- 税関
- 知的財産権
- 情報通信技術(ICT)
- 財政・金融
- 科学技術
- 標準化協力
- エネルギー
- 消費者対策
- 環境保護
- 農業
- 水資源
- 林業

総務部

- 企画・調整
- 広報
- 人事
- 行政・法務支援
- 予算・会計業務
- 文書管理

03. 日中韓三国協力事務局の歴史的背景および発展

- 1999.11 ●— **日中韓三国協力のはじまり**
第3回ASEAN+3首脳会議の際に初めて日中韓首脳会議が行われる(フィリピン・マニラ)
- 2008.12 ●— **日中韓三国協力の制度化**
ASEAN+3の枠組みから独立した形で初めて日中韓サミットが行われる(日本・福岡)
- 2009.10 ●— **日中韓三国協力のための常設事務局の必要性について共感**
第2回日中韓サミットにて、三国首脳が三国協力のための常設事務局の必要性について共感する(中国・北京)
- 2010.05 ●— **日中韓三国協力事務局設立にかかる覚書**
第3回日中韓サミットにて、三国首脳が「三者間協力事務局の設置に関する覚書」を採択する(韓国・済州)
- 2010.12 ●— **日中韓三国協力事務局設立に関する協定**
三国首脳が三者間協力事務局の設置に関する協定に署名する(韓国・ソウル)
- 2011.09 ●— **日中韓三国協力事務局の開設(韓国・ソウル)**
- 2012.05 ●— **日中韓三国協力事務局が日中韓サミットに初参加**
申鳳吉(シン・ボンギル)事務局長が第5回日中韓サミットに出席する(中国・北京)
- 2013.10 ●— **日中韓三国協力事務局がASEAN+3サミットに初参加**
岩谷滋雄事務局長が第16回ASEAN+3サミットに出席する(ブルネイ・バンダルスリブガワン)
- 2016.09 ●— **日中韓三国協力事務局設立5周年**

I.

三国政府間協議への支援





1) 第6回日中韓サミット

2015年11月1日、第6回日中韓サミットが3年半ぶりに韓国・ソウルにて開催され、日中韓の協力プロセスは完全に回復しました。同サミットは、韓国の朴槿恵(パク・クネ)大統領が議長を務め、日本からは安倍晋三総理大臣、中国からは李克強(リ・こくきょう)国務院総理が出席しました。楊厚蘭(よう・こうらん)事務局長をトップに日中韓三国協力事務局代表団も同サミットにオブザーバーとして出席しました。

三首脳は、三国協力の進展を振り返り、今後の発展のあり方について議論したほか、共通の関心事項である地域・国際情勢について意見を交わしました。

また三首脳は、「北東アジアにおける平和と協力のための共同宣言」を採択し、三国協力の枠組みの中での全ての閣僚級協議メカニズムへの事務局の参加による事務局の能力構築への支持を表明するとともに、日中韓協力基金(Trilateral Cooperation Fund: TCF)の創設が三国協力事業の進展のために有用であるとの見解を共有しました。



2) 第18回ASEAN+3首脳会議

2015年11月21日、楊厚蘭(よう・こうらん)日中韓三国協力事務局長は、マレーシア・クアラルンプールにて開催された第18回ASEAN+3首脳会議に出席しました。

同会議で各国首脳は、ASEAN+3におけるこれまでの協力の進展や今後の展望について議論しました。また、東アジアの平和と安定および成長の維持・促進が重要であると強調するとともに、政治、経済、社会文化全般にわたって地域連携を強化することで一致しました。地域及び国際情勢についても意見交換を行いました。

日中韓三国協力事務局は、ASEAN+3首脳会議に2013年からオブザーバーとして出席しています。

政治

第4回日中韓防災担当閣僚級会合
4th Trilateral Ministerial Meeting on Disaster Management

2015年10月28日 日本・東京

日本 内閣府
中国 民政部
韓国 国民安全処

第8回日中韓外相会議
8th Trilateral Foreign Ministers' Meeting

2016年8月24日 日本・東京

日本 外務省
中国 外交部
韓国 外交部



経済・持続可能な開発

第2回日中韓農業大臣会合 (TAMM)
2nd Trilateral Agricultural Ministers' Meeting (TAMM)

2015年9月13日 日本・東京

日本 農林水産省
中国 農業部
韓国 農林畜産食品部

第10回日中韓経済貿易大臣会合
10th Trilateral Economic and Trade Ministers' Meeting

2015年10月30日 韓国・ソウル

韓国 産業通商資源部
日本 経済産業省
中国 商務部



第15回日中韓特許庁長官会合
15th Trilateral Policy Dialogue Meeting between SIPO, JPO and KIPO

2015年11月17日 中国・広州

中国 国家知識産権局
日本 特許庁
韓国 特許庁

第18回日中韓環境大臣会合 (TEMM18)
18th Tripartite Environment Ministers' Meeting

2016年4月27日 日本・静岡

日本 環境省
韓国 環境部
中国 環境保護部



第6回日中韓物流大臣会合
6th Trilateral Ministerial Conference on Transport and Logistics

2016年7月28日 中国・杭州

中国 交通運輸部
韓国 海洋水産部
日本 国土交通省

社会・文化

第7回日中韓人事行政ネットワーク・トップ会談
7th Heads of Personnel Authorities Meeting

2015年9月1日 韓国・ソウル

韓国 人事革新処
中国 人力資源・社会保障部
日本 人事院

第8回日中韓保健大臣会合
8th Tripartite Health Ministers' Meeting

2015年11月29日 日本・京都

日本 厚生労働省
韓国 保健福祉部
中国 国家衛生・計画生育委員会

第7回日中韓文化大臣会合
7th Trilateral Culture Ministers' Meeting

2015年12月20日 中国・青島

中国 文化部
韓国 文化体育観光部
日本 文部科学省

第8回日中韓文化大臣会合
8th Trilateral Culture Ministers' Meeting

2016年8月28日 韓国・済州

韓国 文化体育観光部
日本 文部科学省
中国 文化部



第1回日中韓教育大臣会合
1st Trilateral Education Ministers' Meeting

2016年1月30日 韓国・ソウル

韓国 教育部
日本 文部科学省
中国 教育部



* 参加機関の国名は、会合の開催国、次の開催国という順序で記載されています。

II.

三国協力事業の発掘・促進



01 国際会議「北東アジア地域統合の未来と韓半島」



2015年10月14日、韓国・ソウルにて、日中韓三国協力事務局は韓半島未来財団と共同で、「北東アジア地域統合の未来と韓半島」とのテーマで国際会議(International Conference: “The Future of Regional Integration and the Korean Peninsula”)を開催しました。

同会議には、三国から著名な学者が出席し、北東アジア共同体への道のりを探るべく、同地域における地政学的・地理経済学的な課題や三国協力に向けたモメンタム復元の重要性について議論しました。玄仁澤(ヒョン・インテク)高麗大学教授・元韓国統一部長官は、開会式において、北東アジア共同体構築のための方策について基調演説を行いました。

楊厚蘭(よう・こうらん)日中韓三国協力事務局長は、映像を通じて歓迎の辞を述べました。

02 仙台防災枠組ワークショップ

日中韓三国協力事務局は、2016年3月3日から4日にかけて、韓国・ソウルにて、国連国際防災戦略事務局北東アジア事務所および国際訓練教育機関(UNISDR ONEA-GETI)と共同で仙台防災枠組ワークショップ(Workshop on Sendai Framework for Disaster Risk Reduction)を開催し、日本、中国、韓国およびモンゴルの政府関係者が参加しました。

本ワークショップは、2015年10月に開催された第4回日中韓防災担当閣僚級会合のフォローアップ事業であり、仙台防災枠組の実施促進と政府関係者の能力向上を目的とするものです。本ワークショップでは、UNISDR ONEA-GETIの専門家が仙台防災枠組について講義を行い、同枠組の実事例を紹介しました。参加代表団は、各国における仙台防災枠組の取り組みや最近の災害から得た教訓について発表しました。また、仙台モニターの草案をもとにした各国の防災計画に対する事前評価や分析を行い、仙台防災枠組の実施における政府の役割について意見を交わしました。



03 第4回日中韓三国防災机上演習(TTX)



2016年6月22日、第4回日中韓三国防災机上演習(Trilateral Table Top Exercise(TTX) on Disaster Management)が韓国・ソウルにて開催され、三国の防災関連省庁および機関が出席しました。

韓国国民安全処が主催し、日中韓三国協力事務局が運営を支援した今次演習では、大型台風が朝鮮半島を襲ったとのシナリオでシミュレーションを実施したほか、2015年のネパール地震発生時に派遣した国際緊急援助活動で得られた経験や教訓を共有しました。

すべての参加者が、北東アジアにおける防災面での更なる協力が必要であることを強調し、引き続き同演習を発展させていくことの重要性を認識しました。三国は、次回の防災机上演習を2017年に日本で開催することで合意しました。

01 第1回日中韓経済ワークショップ

2016年1月19日、日中韓三国協力事務局は、「共栄に向けた課題と機会 — 第6回日中韓サミット後の日中韓経済協力」と題した日中韓経済ワークショップ(Trilateral Economic Workshop)を韓国・ソウルにて開催しました。



ワークショップは2つのセッションに分けられ、「日中韓の経済状況の回顧と予測」及び「日中韓の共通課題及び協力の可能性」をテーマに議論が行われました。

「日中韓三国経済報告書2015」の共同執筆者3名をスピーカーとして招き、有益なパネルディスカッションや質疑応答が行われました。本ワークショップには、三国の政界・財界・学界・報道関係者や学生のほか、韓国にある国際機関や外交団から50名あまりが参加しました。



02 第1回-4回「サプライチェーン連結性向上のための三国間協力」研究会

日中韓三国協力事務局は、「サプライチェーン連結性向上のための三国間協力」研究会(Working Group Meeting of Joint Project “Trilateral Cooperation for Improvement of Supply Chain Connectivity(SCC)”)を計4回開催しました(第1回:2016年1月21日ソウル、第2回:3月31日東京、第3回:6月27-28日北京、第4回:8月18-19日ソウル)。

この三国共同プロジェクトは、2015年10月に開催された第10回日中韓経済貿易大臣会合において、日中韓三国協力事務局の主管で実施することが合意されました。同研究会は円滑な共同事業の実施を目的としており、日中韓三国協力事務局は三国政府および参加研究機関間の議論を調整・仲裁する役割を担っています。



03 第4回日中韓FTAセミナー及び日中韓ビジネス交流会

2016年4月7日、日中韓三国協力事務局は、韓国・ソウルにて、第4回日中韓FTAセミナーおよびビジネス交流会(CJK FTA Seminar & Business Networking Reception)を開催しました。韓国産業通商資源部、中国商務部、日本外務省及び経済産業省の協力により開催された本セミナーは、第10回日中韓FTA交渉(局長・局次長級)の実施に合わせて行われました。日中韓の政府や財界、学界の様々なセクターから約120名が参加し、日中韓FTAについて意見を交わしました。

オープニングセッションでは、三国交渉団の代表である兪明希(ユ・ミョンヒ)韓国産業通商資源部FTA交渉官、洪暎東(こう・ぎょうとう)中国商務部国際経済貿易関係司副司長および佐藤達夫外務省経済局審議官がそれぞれ祝辞を述べ、日中韓FTAが三国の経済の活発化だけでなく、東アジア経済統合を成し遂げるよい機会になるとの見解が共有されました。



続いて行われた2つのセッションでは、様々なセクターから集まったモデレーター、スピーカーおよびパネリストが「アジア太平洋地域の経済統合という側面から見た日中韓FTAの意義」および「三国協力の発展のための日中韓FTAの重要性」という議題で発言し、各セッション後には、聴衆者との間で深い議論が交わされました。

セミナーの締めくくりとして、崔炳鎰(チェ・ビョンイル)梨花女子大学国際大学院教授が、三国が抱える対内外の共通課題を解決するにあたり、日中韓FTAが与える肯定的役割について説明しました。閉会の辞において、李鍾憲(イ・ジョンホン)日中韓三国協力事務局次長は、東アジア経済統合における日中韓FTAの重要性を強調し、日中韓FTA交渉が三国が相互利益をもたらす形で妥結するよう期待を表明しました。

セミナーに続いて行われた日中韓ビジネス交流会では、厳致成(オム・チソン)韓国全国経済人連合協会国際本部長、韓瑞祥(かん・ずいしょう)駐韓中国国際商会会長、高杉暢也ソウルジャパンプラブ名誉顧問等三国の主要な経済人が集まり、新しいビジネスチャンスのためのネットワーク作りや日中韓産業協力の今後の発展方向について議論する場となりました。



2016年6月16日、日中韓三国協力事務局は、「環境に対する人々の意識向上に関する日中韓協議(Tripartite Environmental Consultation Meeting on General Public Awareness Improvement)」を韓国・ソウルにある事務局にて開催しました。

本協議は、第18回日中韓三カ国環境大臣会合で合意された「環境協力に係る日中韓三カ国共同行動計画(2015-2019)」に定められた9つの優先分野のうちの一つである「環境に対する人々の意識向上」の実現に向けて議論することを目的に、政府の実務者や関連の専門家を招いて行われました。

本協議では、環境保護に対する人々の意識向上のための各国の政策やベストプラクティスについて情報共有がなされ、日中韓三国が共同でとるべき方策について議論しました。



2015年11月3日から14日にかけて、日中韓三国協力事務局は、環球時報(Global Times)と共同で第2回日中韓記者共同取材プログラム(CJK Journalist Joint Interview Program)を実施しました。環境保護と持続可能な開発に焦点を当てた第1回目につき、今年は三国協力の発展のための文化交流に関するインタビューに焦点を当てたプログラムとなりました。

本プログラムでは、日中韓各国から選抜された9名のジャーナリストで構成された代表団が、中国外交部、中国公共外交協会、日本動画協会、日本の国会、韓国対外経済政策研究院、CJ Entertainment(訪問順)等を訪問しました。また、韓昇洙(ハン・スンス)元国務総理、河野洋平元副総理、陸川(りく・せん)監督等の著名人に対する共同インタビューも行われました。

本プログラムは、三国協力の発展および展望について三国のジャーナリストの理解を深め、友好的なメディア環境を醸成し、三国協力に関するマスコミの関心を高めることを目的としています。



2015年11月10日、韓国・ソウルにある延世大学にて、日中韓三国協力事務局は、韓中友好協会との共催で第5回日中韓キャンパスハーモニー(Trilateral Campus Harmony)を開催しました。

本事業は、日中韓三国の代表的な青少年交流事業の一つであり、三国の若者が自ら作成した短い動画を通じて、三国の友好関係増進のための奇抜で聡明なアイデアを発表するものです。三国の学生3人が集まって1チームを作りますが、今回は計9チームが参加して「日中韓の心の絆づくり」とのテーマで競い合いました。三国協力事務局は審査員として参加し、「おとぎ話から見る三国間の影響と未来」と題したプレゼンテーションを行ったチーム「Three Goblins(三匹の鬼)」が事務局長賞を受賞しました。



2015年11月14日、日中韓三国協力事務局は、日本国際交流センターとの共同主催、東アジア財団の後援で、「日中韓ユース・ダイアログ(China-Japan-ROK Youth Dialogue)」を開催しました。

本行事は、日中韓三国の大学生、大学院生が参加する学生団体である韓国のグローバル・アジア・リーダーシップ・フォーラム(GALF)および日本の知日派国際育成プログラム(KIP)のメンバー30名余りが参加しました。学生たちは異なる国籍で構成された3つのグループに分かれ、それぞれ早期英語教育や就職活動文化、ライフ・アンド・ワークバランスなど現代の若者が抱える問題の現状について理解し合い、それらに取り組む上で三国でどのように協力できるかについても議論しました。



04 第3回日中韓記者交流プログラム

日中韓三国協力事務局は、2016年6月27日から7月6日にかけて、第3回日中韓記者交流プログラム(Trilateral Journalist Exchange Program: TJEP)を実施しました。今年度のプログラムでは、梅澤彰馬日中韓三国協力事務局次長の引率のもと、日中韓各国から計12名の記者が参加し、日中韓三国の古都である京都、西安および慶州(訪問順)を訪問しました。これらの都市は、政治・経済・文化・教育の中心地であり、豊かな伝統文化や歴史遺産を有しており、その文化的背景や発展過程に焦点が当てられました。

記者団は、三都市の政府機関や企業、文化遺産を訪れ、固有の歴史や文化、観光政策、経済活性化のための努力や国際協力増進を図るための政策の現況について説明を受けました。また、参加者間で率直に対話する場を設け、三国のメディア環境の現状や三国協力を促進する上でメディアが果たす役割についても意見を交わしました。



05 第5回、第6回日中韓月例講演会(TCS LOUPE)



日中韓三国協力事務局は、日中韓月例講演会(TCS LOUPE)を開催しています。「TCS LOUPE」とは、「東アジア地域を俯瞰する(Lecture on Uncovering Panoramic East Asia)」という趣旨です。この講演シリーズは日中韓三国から様々な専門家を招待し、三国を比較しながらそれぞれの魅力を説明するものです。2016年6月29日に行われた第5回講演会では、東アジアの食の専門家として著名な韓国学中央研究院の周永河(チュ・ヨンハ)先生が、「日中韓の食文化の類似点と相違点」について講義しました。

2016年8月4日の第6回講演会は、青年大使プログラム(Young Ambassador Program)の一環として開催され、韓国日報のキム・キョンジュ記者が、日中韓三国の若者38人にインタビューした経験をもとに、「青年レポートを通して見た日中韓青年文化の観察」と題した特別講義を行いました。



日中韓三国協力事務局は、2016年8月1日から12日にかけて、韓国・ソウル及び済州にて2016年度青年大使プログラム(Young Ambassador Program: YAP)を開催しました。2013年に始まった本プログラムは、日中韓三国の次世代のリーダーが日中韓三国協力に対する理解を深め、共同体意識や友好関係を強化する目的で企画された2週間の学生交流プログラムです。今年度は、日中韓三国から選抜された16名の学部生・大学院生が参加し、三国協力の主な分野について専門家の講義を受けたほか、政府機関やシンクタンク、国際機関を訪問し、チーム課題や文化活動にも取り組みました。

参加者は、日中韓関係に関する様々な問題について熱く議論し、「日中韓安全保障協力における認識の相違の克服」、「教育制度の比較」、「協力に向けての過剰なナショナリズムの克服」の3つの課題についてチーム別プロジェクトを行いました。プロジェクト期間中に各自の課題について調査・研究した内容を発表し、お互いの意見を分かち合いました。日中韓三国協力事務局は、三国協力ならびに三国の若者の友好促進に向け、今後も引き続き本プログラムを実施してまいります。



2016年8月11日から13日にかけて、日中韓三国協力事務局は、2016年度東アジア文化都市と共同で、日中韓吹奏楽交流(Trilateral Ensemble Exchange Performed by the 2016 East Asian Cultural Cities)を韓国・済州で開催しました。本事業は、世界中の管楽オーケストラが集うアジア最大の音楽祭の一つである第21回済州国際管楽祭の機会に合わせて行われました。

2016年度東アジア文化都市である韓国・済州の「大静高校バンド」、中国・寧波の「寧波シンフォニー・オーケストラ管楽アンサンブル」、奈良の「高円高校管楽アンサンブル」が参加し、済州文芸会館や天帝淵瀑布野外ステージなどの主要な公演場で、他国の楽団と共に印象的な公演を披露しました。特に8月13日には、「東アジア文化都市音楽会」がハモ体育公園で開催され、三楽団は、三国の民謡を共演し多彩な響きを奏でました。

01 日中韓三国協力国際フォーラム2016及び第1回日中韓三国公共外交フォーラム

2016年4月29日、日中韓三国協力事務局は、中国・北京釣魚台国賓館にて、中国公共外交協会との共催で、日中韓三国協力国際フォーラム2016 (International Forum for Trilateral Cooperation (IFTC) 2016) 及び第1回日中韓三国公共外交フォーラム (The 1st Trilateral Forum on Public Diplomacy) を開催しました。

「対話と交流の深化、三国協力の新しい段階に向けて」との主題のもとで、第6回日中韓サミットのフォローアップとして開催された今次フォーラムは、日中韓三国の相互理解と友好を強化し、パブリック・ディプロマシーの重要性に対する認識を高めることを目的としています。サイドイベントとして、「日中韓共通漢字808字」の展示も行なわれました。



本フォーラムは政治・安保、経済・持続可能な開発、社会・メディアの3つのセッションに分かれて行われました。第1セッションでは、「共通性の追求：北東アジアの平和と安定及び世界繁栄のための三国協力」と題し、岩谷滋雄前日中韓三国協力事務局長がモデレーターを務め、域内の政治安全保障上の課題へ対処するための三国協力についての議論がなされました。また、歴史の和解や域内の新たな安全保障体制、三国議員交流、朝鮮半島問題等についても話し合われました。

第2セッションでは、「三国経済の高い補完性及び大きな可能性：三国協力の本質」とのテーマで、日中韓三国の著名な経済専門家が議論を率い、三国の経済状況を検証し今後の展望を共有し、将来の三国経済協力に向けた提案を行いました。

第3セッションの「人的交流及びメディア交流の促進：相互理解及び友好関係の発展」では、日中韓三国から著名なスピーカーを招待し、人的交流の重要性を検証するとともに、三国間の相互理解を深めるためのメディアの責任や役割について活発な議論が行われました。大衆文化交流、女性交流、三国共同新聞の創設、EUの事例学習など更なる共通利益を求めて多様で斬新な意見が出されました。





日中韓三国協力事務局は、2016年5月25日から27日にかけて韓国・済州で行われた第11回平和と繁栄のための済州フォーラム(Jeju Forum for Peace and Prosperity)において、三国協力をテーマにした2つのセッションを行いました。

第1セッションの「日中韓三国の視点：北東アジア原子力安全協力強化」では、日中韓から原子力規制機関の関係者を招待し、各国の原子力開発の現況、原子力関連の規制や法制度、原子力安全文化、二国間ならびに三国間での原子力協力の進捗について紹介しました。また、過去8年間で目に見える成果を上げた日中韓上級規制者会合(Top Regulators' Meeting on Nuclear Safety: TRM)の枠組みのもと、今後も原子力安全のための三国協力を進めていくことが強調されました。

第2セッションの「北東アジア観光の新領域：三国協力によるインバウンドの増加」では、三国の観光関連の政府部署や学界から専門家をスピーカーとして招き、北東アジア地域外から来る観光客の誘致についての日中韓観光協力の動向が紹介され、域外観光客に域内観光地を魅力的に広報する方策についての提案がなされました。同セッションでは、欧州・北米から日中韓三国へのインバウンド拡大のために第7回日中韓観光大臣会合(Trilateral Tourism Ministers' Meeting)で提案された「Visit East Asia Campaign」についての議論が中心となりました。

III.

他の国際機関との交流および調整



東南アジア

01 東南アジア諸国連合(ASEAN)への訪問

2016年2月20日から24日にかけて、楊厚蘭(よう・こうらん)日中韓三国協力事務局長は、ラオスおよびインドネシアを訪問しました。楊事務局長は、ラオスにて、アルンケオ・キッティクン(Alounkeo KITTIKHOUN)外務副大臣兼ASEAN次官補を表敬訪問し、ASEAN+3における協力の発展のため三国協力事務局が果たす役割について意見交換を行いました。

また、楊事務局長は、レー・ルオン・ミン(Le Luong MINH)ASEAN事務総長と面談し、ASEAN諸国と三国の共通の関心事項についてのセミナーやワークショップを共同開催するなど協力可能なプロジェクトの発掘や実施に向けて引き続き緊密に連携していくことを確認しました。また、日中韓三国協力事務局代表団は、三国の駐ASEAN代表部をそれぞれ訪問し、三国間協力の発展の方向性やASEANと三国間のパートナーシップについて意見を交わしました。



02

第7回中国アセアンセンター・日本アセアンセンター・韓国アセアンセンター事務総長会議への参加

2016年4月19日、東京にて、楊厚蘭(よう・こうらん)日中韓三国協力事務局長は、第7回中国アセアンセンター・日本アセアンセンター・韓国アセアンセンター事務総長会議(Meeting among the Secretariat-General of the ASEAN-China Centre, ASEAN-Japan Centre and ASEAN-Korea Centre)に参加しました。

楊事務局長は、これまで続けてきた3つのセンターとの交流を基盤に、楊秀萍(よう・しゅうへい)中国アセアンセンター事務総長、藤田正孝日本アセアンセンター事務総長および金英善(キム・ヨンソン)韓国アセアンセンター事務総長と今後の東アジアにおける協力の可能性について意見交換を行いました。

楊事務局長は、三センターが同会議に招いてくれたことに対する謝意を表し、事務局が行っている社会・文化分野でのプロジェクトやこれまでのASEANとの取り組みを紹介した後、具体的な協力事業の一環として青少年交流やメディア交流について事務局の考えを示しました。これらの提案を受けて三センターの長は事務局が三センター間の協力についてどのような建設的な貢献ができるかを議論しました。事務局および三センターは、今後も円滑な意思疎通を行っていくため各々のフォーカルポイントを決定しました。

欧州

01

駐韓欧州連合(EU)代表部への表敬訪問



2015年10月5日、日中韓三国協力事務局の協議理事会メンバーは、駐韓欧州連合(EU)代表部を訪問し、ゲアハルト・ザバティル(Gerhard SABATHIL)駐韓EU大使と三国協力について意見交換を行い、日中韓とEU間の協力を強化することは重要であり、更なる発展に向け両機関の交流を促進していくことで一致しました。また、双方は、日中韓サミット、日中韓教育交流および日中韓FTAなど三国協力に関する様々な事項について意見交換を行いました。



02 北欧閣僚理事会・事務総長の来訪

2016年5月30日、ダグフィン・ホイブローテン(Dagfinn HØYBRÅTEN)北欧閣僚理事会事務総長が三国協力事務局を訪問し、協議理事会メンバーと面談を行いました。

今次訪問は、2012年の日中韓三国協力国際フォーラムに同理事会が参加した機会に初めて行われた面談に続くもので、両機関の協力をさらに活性化させることを目的としたものです。両機関は各自の機関についての概略を紹介するとともに、相互協力を推進するための互恵的関係を構築していくことについて議論しました。また、主要な出来事や出版物を定期的に共有し交流を継続し、将来の協力の可能性を模索していくことで一致しました。



国連機関

01 第7回、第8回国連グローバル・コンパクト日中韓ラウンドテーブルへの参加



日中韓三国協力事務局は、2015年10月28-29日に韓国・ソウル、2016年8月21-22日に中国・北京で開催された、第7回、第8回国連グローバル・コンパクト(UNGC)日中韓ラウンドテーブル(UN Global Compact China-Japan-Korea Roundtable Conference)に公式に参加しました。

同ラウンドテーブルは2009年から各国のUNGC協会が持ち回りで開催しているものです。三国のビジネスマンや学者、若者が参加し、持続可能な開発に対する人々の認識を高め、グローバル社会経済の発展のため企業がどのような役割を果たしていくのかについて理解を深めることを目的としたものです。

日中韓三国協力事務局は、財政的な支援に加え、ラウンドテーブルの内容に対するインプットも行っています。

02 国連アジア太平洋経済社会委員会北東アジア事務所長の来訪

2016年3月9日、国連アジア太平洋経済社会委員会北東アジア事務所(UNESCAP-ENEA)のキラパーティ・ラマクリシュナ(Kilaparti RAMAKRISHNA) 所長が日中韓三国協力事務局を訪問し、両機関の協力関係強化について意見交換を行いました。両者は、地域経済統合および持続可能な開発の分野における協力の可能性が高いとの見解で一致しました。

03 国際連合教育科学文化機関アジア太平洋地域国際理解教育院長の来訪

2016年3月15日、国際連合教育科学文化機関アジア太平洋地域国際理解教育院(UMESCO APCEIU)のチョン・ウタク院長と韓国・江原道庁のクォン・オウ教育行政官が日中韓三国協力事務局を訪問し、今後の協力について議論しました。面談では、両機関が行う日中韓教育協力に関するプロジェクトについて説明があり、日中韓三国協力事務局に対する支援要請がありました。



04 国連国際防災戦略事務局部長の来訪

2016年7月20日、キルシ・マディ(Kirsi MADI)国連国際防災戦略事務局(UNISDR)部長が、日中韓三国協力事務局を訪問し、梅澤彰馬日中韓三国協力事務次長と災害リスクの軽減について意見交換を行いました。両機関は、各自の最近の活動を紹介し、過去の協力事業を振り返りながら、国際社会による災害リスクの軽減のための努力や「仙台防災枠組2015 - 2030」への取組みについて議論しました。両機関は、今後も仙台防災枠組を推進していくための共同事業をはじめとした相互協力の強化を継続していくことで合意しました。



IV.

研究及びデータベースの構築



01. 2015 - 2016年 日中韓三国協力進捗報告書 Progress Report of the Trilateral Cooperation

「日中韓三国協力進捗報告書」は、全ての協力分野における三国の活動および進捗の概況を紹介することを目的に年に一度発行されます。この報告書は、三国協力事務局の設立に関する協定に基づき、日中韓外相会議において提出され、承認を受けます。日中韓三国協力事務局はこれまで5回にわたり進捗報告書を発刊しており、最新の第5次進捗報告書には2015年5月から2016年4月までの活動が記載されています。



02. 共にあゆむ日中韓 CJK Together

小冊子「共にあゆむ日中韓」では、三国の政治、経済、社会文化、開発における最新データや重要事項を一般の方々にもわかりやすいように図やグラフを用いて掲載し、日中韓三国の協力がいかに重要であるかを説明しています。本冊子は、日中韓三カ国の言語に翻訳されています。

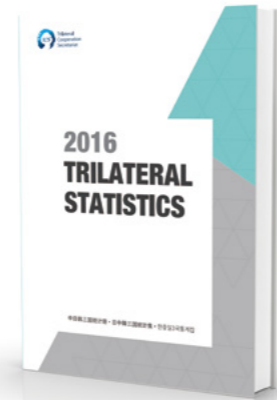


03. 日中韓三国経済報告書2016 Trilateral Economic Report

「日中韓三国経済報告書2016」は、日中韓の経済発展・統合に関連した研究資料を収録した定期出版物です。今回は、各国の経済状況や政策をより正しく分析するため、伊藤元重学習院大学教授、魏際剛(ぎ・さいこう)国務院発展研究センター研究員、鄭圭哲(チョン・ギョチュオル)韓国開発研究院研究委員といった学者が研究に参加しています。今次報告書は、(1)マクロ経済、(2)貿易、(3)投資、(4)FTA、(5)産業協力、(6)政策提言の6つで構成されています。

04. 2016 日中韓三国統計集 Trilateral Statistics

「2016 日中韓三国統計集」は、日中韓各国の経済状況及び三国間の経済関係に関する具体的なデータを掲載しています。マクロ経済、人口、交通、資源等の全般的な経済状況だけでなく、域内貿易や投資、人の移動など三国の経済関係を示す具体的な数値が示され、三国経済の相互依存関係や地域統合の必要性がうかがえます。



日中韓三国協力国際フォーラム2016及び第1回日中韓公共外交フォーラム成果報告書

Outcome Report of International Forum for Trilateral Cooperation (IFTC) 2016 and the 1st Trilateral Forum on Public Diplomacy

「日中韓三国協力国際フォーラム2016及び第1回日中韓公共外交フォーラム成果報告書」は、2011年以降毎年開催されている同フォーラムの成果を総括するものです。本報告書は、三国協力の今後のアジェンダを設定し、政界・学界・言論界など多様な分野の専門家から提案を受けた斬新なアイデアや政策提言を集め、日中韓三国協力事務局の潜在的役割や機能を考えていく上での参考資料として活用されています。

